

また、ホームページを開設していくことは、会員だけでなく体育に関わる教師、関係者にも大いに参考になることだと期待しています。“インプットしたらアウトプットする”ことが研究会の成長のためにも肝要なことだと思います。

2つ目の会員の指導技術を高めることとは、「授業の質を高めること」です。しかし、離島ではなかなかその機会に恵まれていません。

当時は、教育事務所から派遣された教師が講師となり、八重山地区の小学校から伝達講習に参加して行っていました。諸事情によりできなくなりました。

そこで、小体研が受け継ぎ、夏季に行われる体育指導者講習会の受講者に伝達講習の講師を引き受けてもらうことにしました。私も講師として伝達する機会があり、跳び箱台車やノーパンクボールを紹介しました。

3つ目に、小学校の保健授業は、「雨降り保健」と言われ、雨が降って運動場が使えない時にやるという実態がありましたが、学習指導要領の改訂で小学校保健の授業が計画的に行われるようになり、教科書やノートも活用されるようになりました。

初めて保健の公開授業を宮古大会で観たときは衝撃的でした。宮古地区は、研究会が活発で先進的に取り組み、課題解決学習で保健の授業を進めていました。八重山地区でも是非、保健分野も進めていきたいと強く思った瞬間でした。

今では、組織的な研究として定着してきたことは大きな成果ですが、研究会に参加していない小学校教師にいかにも還元し、授業改善に繋げるかを小体研のミッションとして進めて欲しいと思います。

4つ目に研究会の活性化を図ることです。長年、6年に一度の県学体研八重山大会前の年だけ集い、大会終了後、機能停止状態が続いていました。地区陸上大会の時は盛り上がるが、それ以外で他校の教師と交流することはあまりありませんでした。そこで、まずは会員が相互の交流することを目指しました。以前から会員同士のソフトボールやバレーボールは行われていました。ただ、限られた会員なので小学校教師は体育の授業をもつことを考えると、体育授業研究を一部の教師だけで進めることは課題です。そこで、会員以外でも参加ができ楽しめるソフトバレーを行い、各学校から多くの職員を募って交流を図り、100名ほどの参加がありました。また、ソフトボールは東西対抗で行い、その後の夜の情報交換は一大イベントのような盛り上がりがありました。

もう一つ大切にしたのは総会でした。総会に人を集めることが年間活動の活性化に直接繋がります。その場で会員の意見を聞き、情報交換を行い、それぞれの思いを交流する場になりました。当初は、研究授業を引き受けてくれる先生を根回しして提案をしましたが、総会が定着し会員が増えたことをきっかけに、研究授業者立候補を募ってみると以外に手が上がる会員が多く、10年がかりで後輩が育ててきた成果だと実感できました。

退職して早5年が過ぎましたが、小体研愛は今も変わることはありません。むしろ、増しているかもしれません。

現在は、認定こども園園長として幼児体育を推進し、日本幼児体育学会に所属し、実践発表や全国の幼児体育関係者と交流を図り、地元では親子体操を推進しています。

小学校体育を実践研究してきた成果を、幼児における身体機能の発達のための運動あそびと、小学校以降の学校体育へ繋がる基礎的な運動感覚づくりの実践を日々楽しんでいます。

学校教育目標は、「知、徳、体」で構成されています。その一つの柱である「体」を直接担う体育授業の役割はどんな時代でも代わることはありません。

小体研活動は、時代と共に時代に応じて変化しても益々重要になっていることでしょう。

「明朗活発教養あり」の研究会を目指して頑張っていきましょう。